

# 報告書・レポートの作成

基礎セミナーA

2020/06/05



名古屋大学減災連携研究センター  
Disaster Mitigation Research Center, NAGOYA UNIVERSITY

## 2020 基礎セミナーAテーマ

- A. 災害が起きても使える建物にするにはどうする
- B. 減災を考えた気候変動対策について考える
- C. 持続可能性と災害への耐性を併せ持つ社会システムを構築する

## ワークショップとは何か

- グループによる知的相互作用
- 多様な人たちが主体的に参加し、メンバー相互の作用を通じて、新しい創造と学習を生み出す方法
- **自由に意見を言い合える場づくり**
- **合意形成の場づくり**

## ワークショップの基本的な流れ

- 方針、達成目標、ルールを示す。
- 場合によっては話題提供。
- アイスブレイク。
- (個人) アイデアを抽出。
- グループでアイデアを共有する。
- アイデアをグループで構造化する。

# 報告書作成の基本

- **合目的性** ; 文章の目的を正確に理解
- **適時性** ; その文章の内容が最も求められているタイミング
- **信頼性** ; 情報の出所が曖昧、二次・三次資料は避ける
- **具体性** ; 内容、主張、提案を裏付ける数字、日時、統計
- **明示性** ; 必須項目が含まれており、その並び方が理論的
- **情報性** ; 新しくて正確な情報が含まれている
- **論理性** ; 論旨の展開が筋道だっており、説得力ある表現

# レポート、報告書、論文

## — レポート

- ✓ 決まった様式にとらわれず、比較的自由なスタイルで記述できる。

## — 報告書

- ✓ ある程度決まった様式に沿って記述する。現状・結果はどうなっているのかという事実ベース

## — 論文

- ✓ 理論に基づいた独自の主張を論理的に記述。事実に対する客観的な判断。

# 内容を整理する

## > 6W1H

- When
- Where
- Who
- What
- Why
- How
- Whom

# 報告書の形式

## — はじめに

✓ なぜ行う必要があったのか。背景や問題を明確に。

## — 概要

✓ どんな組織が、グループが、誰を筆頭に、どんな内容を何人で行ったのか。期間など、事実を書く。

## — 結果

✓ 事実をそのまま載せる。

## — 分析

✓ 求めていた結果が出たのか出なかったのか、何故？。

## — おわりに

✓ 結果を簡単にまとめ、次のプランや展望。

# 学術論文

- 概要 (Abstract)
- はじめに (Introduction)
- 方法 (Method)
- 結果と考察 (Results and discussion)
- 結論 (Conclusions)
- 謝辞 (Acknowledgement)
- 参考文献 (Reference)

# ワークショップ報告書について

1. 表紙
2. はじめに
3. グループメンバー一覧
4. ワークショップのテーマと目的
5. ワークショップの概要 (実施日時, 参加者)
6. ワークショップの流れ (手順と結果)
7. ワークショップの考察
8. おわりに